

## 第6回双葉町放射線量等検証委員会 議事要旨

日 時：令和2年7月22日（水） 13：00～14：50

場 所：双葉町役場コミュニティーセンター連絡所

1 双葉町内現地視察（略）

2 開会（略）

3 委員長あいさつ（略）

4 議事

（1）双葉町における除染解体工事の進捗について

（2）今後の取組等について

- 資料2に基づき、環境省から説明。
- 資料3に基づき、事務局から説明。

（主な意見）

- Dシャトルの測定データでは、作業員と一般人（例：コミュニティーセンター連絡所に通勤する職員）の区分けを明確にして評価する必要がある。
- 1日の生活の中で、寝ている時間が一番長いので、その時間と空間線量率の積算が被ばく線量となりますので、被ばく線量に差が出ているのではないか。休日についても、1日に自宅にいるのかなども調べてみるとデータの差について、検討できるのではないか。
- データは、長期的に測定することが一番大事である。このようなデータの積み重ねが全体的な評価としての意味があると思う。
- 避難指示解除になると、野生の植物等を食べてもいいのだろうか等の食品の問題になると思う。食品モニタリング等は、どこかのタイミングで始めたほうが良いと思う。
- 食品モニタリング等のシステムが双葉町では、まだできてないと思う。今後、避難指示解除に向かっては、このようなシステムをきちんと町で構築していくことが必要である。
- 放射線については、実感として理解することが大事であり課題でもある。リスクコミュニケーションは、環境省や原子力安全研究協会が中心になって、他市町村でいろいろなことをやっているの、双葉町から要求していくべきである。
- 双葉町は震災前には山菜等を取って食べるのが普通だったと思うので、食品モニタリングの測定したデータを、準備宿泊や避難指示解除に向けた説明会等で測定データを出すことにより、安全安心の材料になると思う。

- 日本の放射線基準が、非常に異常である。その異常さをきちんと理解した上で生活しないと、本当に窮屈で、農業等とかの復興ができない。
- 他市町村が避難指示解除にされたときに、水道水の不安を言う住民が多かった。測定データで線量が出てなくても、なかなか安堵していただけなかった経緯がある。双葉町では、上水道が復旧したら、測定結果を広報紙等で測定結果をオープンにしたほうがいい。測定結果を早いうちに公開したほうが、住民の安心に繋がると思う。
- 放射能等については、事故当時のイメージがもうずっと体に染み付いているから、それを克服してもらわなければならない。避難指示解除になる前、特にこっちに戻りたいという人には、座学だけでなく、体験型で、いろいろな体験をしてもらうのがいいと思う。
- 小中高校のがん教育の外部講師やっているが、結局被ばくの話で何を怖がっているのかというと、将来がんのリスクが上がるだろうところに、すごく恐怖とかがあり、長い目で見ると自分がすべてがんになってしまうことを怖がっている人が多くて、がんに対する教育も必要と感じている。しっかりとがんのリスクを説明すると、素直に理解している子が多い。大人になるとなかなかイメージを変えるの難しいので、そういう若い頃から教育を受ける必要がある。
- キノコ等の食品モニタリングは、住民参加型にし、測定結果を示すことでモチベーションが違おうし、理解度も進むと思う。
- 家庭菜園等を持ち込んだ場合に、測定できる環境を整える必要があると思う。
- 役場職員は、町民との距離も近いし最前線にいることから、知識レベルを上げていくことが大事なので努力していただきたい。

5 その他

6 閉会（略）